

企画展 戸越と小山 —山路治郎兵衛の筍栽培と足跡—

期間	平成30年3月31日(土)～7月1日(日) 80日間				
会場	第二展示室				
有料観覧者	一般 1,569	小中 132	一般団体 0	小中団体 0	有料計 1,701
無料観覧者	区関係 78	区内小中 303	招待 175	高齢者 873	無料計 1,429
					総計 3,130

〔開催趣旨〕

毎年4月中旬に武蔵小山商店街連合会が主催する「ムサコたけのこ祭り」は、江戸時代に鉄砲洲で廻船問屋を営んでいた山路治郎兵衛勝孝が薩摩藩から孟宗竹の種竹を取り寄せ、戸越の宅地付近で筍の栽培を始めたことを起源としている。孟宗竹は、薩摩藩が琉球経由で中国から輸入したもので、別名「江南竹」とも呼ばれ、鹿児島城下の島津邸仙巖園で栽培されていた。山路勝孝が戸越に植えた孟宗竹は、その後、近隣農家の協力を受けて小山・中延・目黒に広がりを見せ、付近は筍の一大産地になった。

また勝孝の子孫勝知は、明治時代に戸越村・上蛇窪村・下蛇窪村の戸長をつとめたほか、京陽小学校の設立や村社・戸越八幡神社の維持、関東大震災発生時の平塚村への救済など数多くの事蹟を残し、地元の発展に大きく寄与した。

本展示では、「ムサコたけのこ祭り」の開催にあわせ、山路家が所蔵する筍栽培関係の史料や、品川歴史館が子孫から寄贈・寄託を受けた史料などから、山路勝孝と勝知の足跡をたどりながら戸越・小山路域を紹介した。



〔展示概要〕

1. 江戸時代の戸越村と小山村
2. 山路勝孝が広めた孟宗竹
3. 山路勝知の地域貢献